

新規事業採択時評価結果（平成19年度新規事業化箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：木村 昌司

事業の概要

事業名	一般国道340号 土淵バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	岩手県
起終点	自：岩手県遠野市土淵町土淵 至：岩手県遠野市土淵町栃内	延長	4.5km		
<p>事業概要</p> <p>一般国道340号は、岩手県陸前高田市を起点として、遠野市、岩泉町、軽米町を経由し、青森県八戸市に至る総延長251.9kmの幹線道路であり、岩手県地域防災計画における緊急輸送道路にも指定されている。本事業は、遠野市土淵地区の隘路解消を目的とした4.5kmのバイパス整備事業である。</p>					
<p>事業の目的、必要性</p> <p>遠野市土淵地区を通る、一般国道340号は、幹線道路として遠野市と宮古市を結ぶ路線であり、広域的な観光ネットワークの一翼を担うと同時に、沿線集落の生活道路として利用されている。</p> <p>しかし、土淵地区の現道は、幅員狭小や線形不良な道路状況のために車両のすれ違いが困難、交通事故の多発など車両の通行に支障をきたしており、早急な整備が期待されている区間である。</p> <p>土淵バイパスの整備により隘路区間が解消され、遠野市と宮古市の所要時間短縮や交通事故の減少、歩行者の安全確保などの効果が見込まれる。</p>					
全体事業費	26億円	計画交通量	5,500台/日		
<p>事業概要図</p>					

関係する地方公共団体等の意見	
要望状況	H12.7.27 遠野市（代表者：遠野市長）から国土交通省三陸国道事務所へ要望 H16.10 国道340号整備促進同盟会から知事に要望 H17.10 国道340号整備促進同盟会から知事に要望

事業採択の前提条件	費用対便益：便益が費用を上回っている（B/C=1.8） 手続きの完了： 関連事業との調整：ほ場整備事業土淵地区と事業計画調整済
-----------	---

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.8	総費用：27億円 （事業費：22億円 維持管理費：5億円）	総便益：47億円 （走行時間短縮便益：46億円 走行費用減少便益：1億円 交通事故減少便益：0億円）	基準年 平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1（交通量-10%）	B/C=3.1（交通量+10%）		
		事業費変動	B/C=1.9（事業費-10%）	B/C=1.6（事業費+10%）		
	事業期間変動	B/C=1.8（事業期間-20%）	B/C=1.7（事業期間+20%）			
事業の影響	評価項目	評価	根拠			
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策		<p>【渋滞損失時間の改善】 区間a（現道区間）について 渋滞損失時間（現況）：31千人・時間/年 渋滞損失削減時間：31千人・時間/年 （31千人・時間/年 0.0万人・時間/年）</p>		
		事故対策		<p>【死傷事故率】 事故率（H10～15）=最大96.9件/億台キロ（県内平均死傷事故率比4.02） 岩手県平均=約24.1件/億台キロ（全国平均=46.1件/億台キロ）</p>		
	歩行空間		バイパスの全区間にわたってW=2.5mの歩道が整備され、安全な歩行空間が確保される。			
	社会全体への影響	住民生活	○	通過交通の排除により通勤・通学者や沿道住民の安全性、快適性が向上する。（周辺には土淵小学校、土淵中学校が立地）		
		地域経済	○	遠野市の主要な観光施設を結ぶアクセス道路である。（遠野市～宮古市間；整備なし98分 整備あり95分：3分短縮）		
		災害	○	岩手県地域防災計画における緊急輸送路に指定されている。		
環境		○	排出削減量CO2;696(t/年)、NO2;2.36(t/年)、SPM;0.23(t/年)の見込み			
地域社会		二次医療施設の県立遠野病院へのアクセスが向上。（遠野市土淵町栃内～遠野病院所要時間22分 19分：3分短縮 対象地区人口1,082人、284世帯）				
事業実施環境		ほ場整備事業土淵地区との事業計画調整済み（用地確保済み）				

採択の理由

費用便益比が1.8と、便益が費用を上回っていることから、事業採択の前提条件が確認できる。当該事業箇所の死傷事故率は高く、事故対策の必要性は高いと判断できる。以上より、本事業を採択した。

評価手法及び評価データについても公表（公表方法については検討）。